



読書は心を耕し、成長の種を蒔く！

部長 松本安博

今年は、なんと台風が多い秋でしょう。発生した台風の数もそうですが、被害の大きさからその印象を強くします。雨も風も自然界の循環にとって大切ですが、もう少しそつと大地に届けてほしいと願うばかりです。

さて、初等部だより7月号で、言語は知識や技能を習得するときにはもとより、それらを活用して筋道を立てて思考し・判断し・表現するときも、コミュニケーションを図るときも基盤となるものであり、豊かな感性や情緒をはぐくむうえでも大切であることを記させていただきました。さらには、国語科を越えた国語力とともに、国際コミュニケーションツールとしての基礎英語力の育成への思いも伝えさせていただきました。その「言語活動の充実」と「言語力の育成」にかかわって、うれしい話が二つあります。

一つは、最近、天気の良い日には、図書室から出てバルコニーで読書に耽る子どもたちの姿が見られることです。勿論、室内で静かに読書する指導も大切です。しかし、時には子どもたち自らが見つけた自由空間で、読書を楽しむ指導も生涯読書の観点からとても重要かと思えます。図書室担当の先生によりますと、ただし守らなければならない次の3つのルールやマナーがあるとのことでした。

- ① 人工芝には下りないこと。
- ② チャイムが鳴る前に室内に戻ることに。
- ③ 上履きを履くこと。

バルコニーの側にあるニセアカシヤの木の影響もだいぶ長くなってきましたが、太陽の温かさが心地よく感じられる日には、しばしこの光景が見られるのではないかと思います。子どもたちが仲良く向きをそろえて、読書に耽る姿を見ていますと、なんとも心が温まり、とてもうれしく思います。そして、今年も日頃の学習に加え、こうした中からたく

さんの読書感想文や生活作文の秀作が生まれました。今週の月曜日には、「第17回初等部読書感想文・作文コンクール」の表彰を行いました。詳細は、ホームページに掲載予定ですので、ご覧ください。

もう一つは、先々週のことでした。後期の図書委員会の委員長さんと副委員長さんが、そろって部長室を訪れて来ました。そして、私が前期の委員長さんにも促しておいた活動を実行したことを伝えてくれました。図書委員会のメンバーが手分けをして1年生から6年生までにアンケートを取り、「図書室にこんな本があったらいいな。」と思う本をリストアップしたとのことでした。そして、図書室担当の先生に既にある本を除いてもらって、希望の本を取りまとめたとのことでした。私は、あらかじめ委員長さんには、「どこまで希望がかなうかわからないけれど、少しでもみんなの希望の本が図書室に入るといいね。」と、話しておきました。

私は、図書室担当の先生にそれらの本を吟味してもらい、次回購入リストの中に、5冊でも10冊でも、初等部生の心を耕し、成長の種を蒔く本を加えていきたいと思っています。そして、アンケートを作成し、計画的・意欲的にやり遂げた図書委員会のメンバーに、「よくやったね。ありがとう。」と、声をかけたいと思います。

